

## 学長式辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

長野県立大学は、皆さんを心から歓迎いたします。また、今日の日を目指してともに歩み、支えてこられましたご家族の皆さまにも、心よりお祝い申し上げます。誠におめでとうございます。

本日は、阿部長野県知事をはじめ、大勢の来賓の方々に、ご多忙中のところご臨席いただきました。この場を借りて心よりお礼申し上げますとともに、後ほどご祝辞を賜りたいと存じます。

本学は昨年四月に開学したばかりの新設大学であり、入学された皆さんは本学の二期生となります。まず本学の成り立ちについて簡単に触れておきます。発端は、今から四半世紀前、本学の前身となる長野県短期大学の卒業生による十二万人の署名活動に始まります。長野県民が四年制の県立総合大学の設立に声をあげたのです。その要望を受けとめて下さったのが阿部知事でした。八年前に長野県知事に就任され、すぐに短大の四年制化の方針を表明し、その後、長野にゆかりのある有識者・学識経験者を集め、広く議論を尽くし、ここに新たな時代に相応しい高い志を持つ県立大学が誕生したのです。同時に、本学はその前身ともいえる九〇年の歴史と伝統を誇る長野県短期大学の高邁な精神をも引き継いでいます。こうした経緯から、長野県立大学に対する県民の期待は極めて大きく、皆さんはその期待の星ということになります。

本学に入学を決めた皆さんは、人生で最良の選択をしたと思います。本学の教育方針、カリキュラム、教職員スタッフ、学習環境、設置センターなど、どれ一つをとっても、全国の大学のトップレベルにあると自信を持って言えるからです。本学の目的も明確です。豊かな人間性を養い、グローバルな視野を身に付け、長野に軸足を置きながら、新たな時代に活躍できるリーダーやプロフェッショナルを輩出することです。

そのために、一年次は全寮制をとり、共同生活をする中で、自立、協調性、社会性、思いやりなど、トップに立つ人間として必要とされる力を磨き、二年次には、海外研修プログラムに全員が参加します。日本と異なる多様な文化・風土・価値観を各専門分野において体験し、グローバルなコミュニケーションスキルや幅広い視野・知見を身につけます。これからの大学教育は、単に学力だけではなく、先の不透明なグローバル社会を生きていくために必要な、非認知的な能力をも求められる時代になりました。皆さんには、この恵まれた教育環境を存分に活用し、自らの能力を磨き、様々なことにチャレンジしていただきたいと思います。

一方で、本学は、ゼミ形式などの授業を通して、教員と学生との距離が近い親身な教育をめざし、その中で、皆さんの心に火をつける教育を行います。皆さん

を積極的に授業に巻き込み、対話を通して理解を深め、フィールドワークなど実践的な活動をも体験させ、学ぶことの面白さや醍醐味に触れさせます。こうしたカリキュラムによって、卒業時には、皆さんが抱えている夢を叶える力を獲得できるようにいたします。

すでに、皆さんの前に、この道を切り拓いてきた一期生がいます。皆さんは、その一期生と協力し、さらに道を切り広げ、後に続く後輩のために、素晴らしい未来に向かう礎を創っていただきたいと思います。

ジョン・バーズというアメリカの小説家は、こう言っています。「誰であっても、自分の人生という物語の中では主人公である」と。これは 当たり前のことです。しかし、今の日本の若者はそうではありません。ともすれば自分が目立つ主演であることを避け、脇役にまわり、他人の意見に逆らうことをせずに、より気楽で、より小さな幸せに安住する生き方を選ぶ傾向があります。しかし、それは自分が親からもらった大きな能力に対して、とても失礼なことであり、同時に大変もったいないことです。心理学者アドラーはこう言います。「自分が自分の人生を生きなければ、一体誰が自分の人生を生きるというのか」と。そこで私は皆さんに、次の言葉を贈ります。「夢と誇りを持ち、人生という舞台の主役たるべし」と。一度しかない人生、ぜひ「人生という舞台の主役」として、思うぞんぶん悔いのない人生を送っていただきたいと思います。

大学は人生のスタートラインです。これから始まる長い人生が素晴らしいものとなるかどうかは、大学での四年間にどれだけ自分の持っている能力を磨けるかにかかっています。良い本を読み、良き友を見つけ、良き先生と出会い、進んで皆と語り合い、実り豊かな学生生活を過ごし、二度とない青春を謳歌して下せることを心より切望いたします。以上を祈念し、私の式辞といたします。

平成三十一年四月六日

長野県立大学 学長 金田一 真澄